

科目・コース（ユニット）名： 社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）
英語名称： Social Medicine (Hygiene & Preventive Medicine, Public Health, Epidemiology Practicum)

【衛生学実習】

【担当責任者】 衛生学・予防医学講座全教員

【連絡先】

E-mail: hygi@fmu.ac.jp

Tel: 024-547-1174

【開講年次】 3 年, 【学期】 後期, 【必修／選択】 必須

【授業形態】 実習

【概要】

衛生学は「生を衛るための学問」であり、生とは人生や生命、生活など人の様々な側面を含んでいる。衛生学・予防医学講座担当の実習においては、環境医学・産業医学・予防医学の3側面から実習を行い、衛生学的視点を涵養する。

環境医学実習では、人々がどのような生活環境に囲まれているか、また、環境が心身の健康に与える影響について、学生による実験や実態調査をもとに学ぶ。環境に潜む問題の発見とその改善策を立案することを通じ、より健康的な環境を形成するために求められる社会医学的な貢献のあり方を検討する。

産業医学実習では、労働衛生三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）について、職場巡視、ストレスチェックをテーマとした実践形式での学習を行い、労働と健康の関連、労働者の健康確保のあり方について系統的に理解する。労働現場における様々な課題について、個人学習、グループ討論により課題の解決法を探り、生活を支えると同時に生活の一部でもある労働の中で人の健康を衛る方法を学ぶ。

また、予防医学実習として、体験型・訪問型の実習を通じ、前述した環境医学および産業医学の基盤を成す、「生活理解」の視点について学ぶ。病い・障がいの当事者や支援者の語りを聴くこと、ならびに支援団体・専門機関等への訪問実習を通じ、健康課題や障害を抱えた人々の生活・人生を理解し、社会として支えていく上での医師の役割を考察する。

以上3種の実習を通じ、生を衛る衛生学の視点を身に着ける。各実習項目において、テュートリアル、レポート、発表会等を実施する。なお、実習協力先の都合によりスケジュール・内容の一部を変更する可能性がある。

【学習目標】

〈環境医学実習〉

1. 日常的な生活場面に存在する環境的な健康関連要因について具体的に例示できる
2. 環境的な健康関連要因を測定する方法について理解し、実践できる
3. 積極的に討論に参加し、学習課題を言語化できる
4. 自らの学習内容を整理し、論理的に報告できる

〈産業医学実習〉

* 産業医学実習全体

1. 産業医の職務について、実践的な観点から概説することができる
2. 労働衛生三管理(作業環境管理・作業管理・健康管理)について実際の活動も含め理解し説明できる
3. 関連法令や規則について理解し、事業場の法令順守のために助言することができる

* バーチャル職場巡視

4. 産業医が行う職場巡視を、事業場の安全衛生の向上のために活用するためのポイントを説明できる

* ストレスチェック

5. 労働者の心のケアについて、ストレスチェックの集団分析より労働環境のアセスメントを行い、改善策を立案できる

〈予防医学実習〉

1. 訪問先・話題提供者に対し社会人としてのマナーを持ち、正しい身なり・言葉遣いで接することができる
2. 訪問先・話題提供者との協力関係を、将来医療に携わる者の立場から、構築することができる
3. 訪問先・話題提供者のプライバシーに配慮できる
4. 医療人となるべき者として自分の役割と義務、権利を理解できる
5. 訪問先・話題提供者から得た情報(問題点、背景、優先度)を理解し、自らの言葉で整理できる
6. 訪問先・話題提供者の生活環境や社会的な背景に、積極的で具体的な関心を示し、主体的に学習することができる

【教科書】

シンプル衛生公衆衛生学

辻一郎・他編

南江堂

医師・医学生のための人類学・社会学

飯田淳子・他編 ナカニシヤ出版

【参考書】

指定しない。

【成績評価方法】

学習の過程、発表会および報告書の内容、実習態度を含めた個人評価などで総合的に評価する。出席については、規定に基づき原則として、実習については4／5以上の出席を要する。

「社会医学」の最終成績については「衛生学・予防医学」「公衆衛生学」「疫学」「法医学」「衛生学・公衆衛生学・疫学実習」を個別に判定し、すべての判定基準を満たした場合に合格とする。不合格の場合、次年度における再履修の範囲は「社会医学」を構成する全ての開設科目とする。

【学習上の注意事項】

初日の実習場所、持ち物などについては、WebClass で連絡する。

【垂直的統合授業の実施内容】

今までの総合科学、基礎医学、社会医学、臨床医学の全ての分野を網羅し、知識を統合する実習とする。

【水平的統合授業の実施内容】

社会医学全ての分野を俯瞰し、取り組む事象に対して考察する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

環境医学実習については、身近に存在する環境医学的課題に対し、社会医学的な観点から問題発見・問題解決に取り組むことで、医療と社会・地域への貢献のあり方を学習する。

産業医学実習については、近年の労働衛生の現状などの学習機会を備えることで、労働者および産業医としての両面より、働く人の労働衛生管理を捉える機会となる。

予防医学実習については、単に病い・障害の当事者の話を傾聴したり、関連団体を訪問し情報収集およびそのまとめを行うだけではなく、問題解決を志向することで将来の医師としてのプロフェッショナリズムとコミュニケーション力を向上する機会となる。医療社会学・行動科学を専門とする講座教員からのフィードバックを受けることができる。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2026/11/6	金	1	(実) オリエンテーション	全教員・ 永幡幸司	
2			2			
3			3			
4			4	(実) 環境医学実習 1	全教員	

5			5			
6			6			
7	2026/11/13	金	1	(実) 環境医学実習 2	全教員	
8			2			
9			3			
10			4			
11			5			
12			6			
13	2026/11/20	金	1	(実) 環境医学実習 3	全教員	
14			2			
15			3			
16			4			
17			5			
18			6			
19	2026/11/27	金	1	(実) 予防医学実習 1	全教員	
20			2			
21			3			
22			4			
23			5			
24			6			
25	2026/12/4	金	1	(実) 予防医学実習 2	全教員	
26			2			
27			3			
28			4			
29			5			
30			6			
31	2026/12/11	金	1	(実) 産業医学実習 1	全教員	
32			2			
33			3			
34			4	(実) 産業医学実習 2	全教員	
35			5			
36			6			

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
各務竹康	教授	福島県立医科大学医学部	

		衛生学・予防医学講座	
日高友郎	准教授	福島県立医科大学医学部 衛生学・予防医学講座	
増石有佑	講師	福島県立医科大学医学部 衛生学・予防医学講座	
永幡幸司	教授	福島大学共生システム理工学類 (非常勤講師)	
遠藤翔太	副院長	よりみち家庭医療クリニック (非常勤講師)	

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

各務竹康および遠藤翔太は、産業医としての実務経験が豊富であり、産業医学実習において現場での経験等を踏まえた教育を実施する。

科目・コース（ユニット）名：社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）【医学3】
英語名称：Social Medicine (Public Health Practicum)

【公衆衛生学実習】

【担当責任者】岩佐 一

【開講年次】3年, 【学期】後期, 【必修／選択】必修,

【授業形態】実習

【概要】

公衆衛生学の実習においては、地域における現実の課題を理解し、自ら問題を設定してその解決策までを考える実践的な課題解決能力の育成を目指した参加型実習を取り入れる。講義で学習した公衆衛生学の系統的知識、技術を地域という生活の場で活用できるようになるために、保健、医療、福祉の第一線で働くスタッフや住民と実際に接し、当事者の生の声と生活する様から学び、実習活動を通じて社会医学の調査方法と、その結果の活用方法を身につける。具体的には、文献学習、学外の施設における見学、面接聞き取りや質問紙による調査などを行い、学会形式による発表会、研究論文形式の実習報告書の作成などを行う。

【学習目標】

- 1) 地域の公衆衛生活動の理論と方法について具体的に説明できる。
- 2) 地域の公衆衛生学上の問題点を把握し列挙できる。
- 3) 地域の公衆衛生学上の問題の解決策を提示できる。
- 4) 学習（実習）計画を自主的に立て、実践することができる。
- 5) 学習成果を論理的・効果的に発表し、報告書にまとめることができる。

【教科書】

公衆衛生がみえる 2026-2027 編集:医療情報科学研究所 発行:メディックメディア（本体 3,600 円 + 税）

【参考書】

NEW 予防医学・公衆衛生学改訂第4版 岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編 南江堂（本体 6,300 円 + 税）

国民衛生の動向 厚生統計協会（毎年8月下旬に発刊）（本体 2,286 + 税）

【成績評価方法】

学習の過程、実習発表会、報告書、実習態度等を含め、総合的に個人評価します。出席については、規定に基づき原則として、4／5以上の出席が必要です。正当な理由のない欠席・遅刻・早退をしないでください（減点をします）。アンプロフェッショナルな行為（正当な理由のない遅刻・欠席・早退、教職員・実習施設職員・地域住民等に対する不適切な態度、

科目・コース（ユニット）名：社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）【医学3】
英語名称：Social Medicine (Public Health Practicum)

等）は教務委員会への報告を行います。なお、「社会医学」の最終成績については「衛生学・予防医学」「公衆衛生学」「疫学」「法医学」「衛生学・公衆衛生学・疫学実習」を個別に判定し、すべての判定基準を満たした場合に合格とします。不合格の場合、次年度における再履修の範囲は「社会医学」を構成する全ての開設科目とします。

【学習上の注意事項】

授業時間は実習活動に専念してください。福島県立医科大学学生としての自覚をもち、言葉使い、態度・服装等には十分に留意してください。

【垂直的統合授業の実施内容】

本実習は、1年生開講科目「地域実習Ⅰ」の発展型と位置づけることができる。地域住民を支える保健・医療関連施設（県北保健福祉事務所、福島市保健所、高齢者保健施設等）での体験学習、施設職員による協力を通じて、地域における保健・医療・福祉の実態について深く学ぶ機会となる。

【水平的統合授業の実施内容】

疫学講座との協働により、「社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）」を実施する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

福島県内の保健・医療関連施設と連携し、施設職員の協力の下、学生自らが地域の健康課題を発見し、解決を志向する本実習は、極めて独自性が高い内容である。

【授業スケジュール】

回	年/月/日	曜日	時限	内容	担当者
1	2026/11/6	金	1	(実) オリエンテーション	教員全員
2	2026/11/6	金	2	(実) グループミーティング	教員全員
3	2026/11/6	金	3	(実) グループミーティング	教員全員
4	2026/11/6	金	4	(実) グループミーティング	教員全員
5	2026/11/6	金	5	(実) グループミーティング	教員全員
6	2026/11/6	金	6	(実) グループミーティング	教員全員
7	2026/11/13	金	1	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
8	2026/11/13	金	2	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
9	2026/11/13	金	3	(実) 実地・グループミーティング	教員全員

科目・コース（ユニット）名：社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）【医学3】
英語名称：Social Medicine (Public Health Practicum)

10	2026/11/13	金	4	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
11	2026/11/13	金	5	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
12	2026/11/13	金	6	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
13	2026/11/20	金	1	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
14	2026/11/20	金	2	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
15	2026/11/20	金	3	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
16	2026/11/20	金	4	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
17	2026/11/20	金	5	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
18	2026/11/20	金	6	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
19	2026/11/27	金	1	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
20	2026/11/27	金	2	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
21	2026/11/27	金	3	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
22	2026/11/27	金	4	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
23	2026/11/27	金	5	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
24	2026/11/27	金	6	(実) 実地・グループミーティング	教員全員
25	2026/12/4	金	1	(実) 発表準備	教員全員
26	2026/12/4	金	2	(実) 発表準備	教員全員
27	2026/12/4	金	3	(実) 発表準備	教員全員
28	2026/12/4	金	4	(実) 発表準備	教員全員
29	2026/12/4	金	5	(実) 発表準備	教員全員
30	2026/12/4	金	6	(実) 発表準備	教員全員
31	2026/12/11	金	1	(実) 実習発表会	教員全員
32	2026/12/11	金	2	(実) 実習発表会	教員全員
33	2026/12/11	金	3	(実) 実習発表会	教員全員
34	2026/12/11	金	4	(実) 講評・報告書作成	教員全員
35	2026/12/11	金	5	(実) 報告書作成	教員全員
36	2026/12/11	金	6	(実) 報告書作成	教員全員

【担当教員】

科目・コース（ユニット）名：社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）【医学3】
英語名称：Social Medicine (Public Health Practicum)

教員氏名	職	所 属
岩佐 一	准教授	福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座
児山 洋平	助手	福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座
湯田 智仁	主任保健技師	福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座
中山 千尋	非常勤講師	福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座（博士研究員）
山田 秀彦	主任保健技師	福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座（併任技師）

科目・コース（ユニット）名：社会医学（衛生学・公衆衛生学・疫学実習）
英語名称：Social Medicine
(Hygiene & Preventive Medicine ,Public Health ,Epidemiology Practicum)

【疫学実習】

① **担当責任者**：コースコーディネーター 大平哲也、分野担当責任者 江口依里・舟久保徳美、佐藤志帆

② **開講年次**：3 年，**学期**：後期，**必修／選択**：必修，

③ **授業形態**：実習

④ **概要**：

疫学とは、目の前で起きている健康事象が、どのような状況であり、なぜ発生し、どうすれば解決できるかを、集団を対象として知る学問である。疫学的な証明がなければ、疾病と要因の因果関係、検査や治療の妥当性は推定できないため、全ての臨床・予防医学における基礎的な学問と言える。疫学実習では、地域での健康に関わる問題を理解し、自ら課題を設定してその解決策までを考える課題解決能力の育成を目指した参加型学習を行う。学生は、地域の保健・医療・福祉に関するテーマ・施設から自分の希望 1 つを選択し、グループ（班）に分かれて実習を行う。グループ分けの後、学習課題を担当教員と相談の上決定する。学習課題に基づき、文献学習、地域の関係機関・施設への訪問、面接聞き取りや質問紙による調査、グループディスカッションによる考察などを行い、学会形式による発表会、実習報告書の作成を行う。

⑤ **学習目標**：

1. 地域の保健・医療・福祉活動を理解できる
2. 地域の保健・医療・福祉上の問題点を把握できる
3. 問題の解決策を考えることが出来る
4. 学習計画を自主的に立て、実践することが出来る
5. 学習の成果を効果的に発表できる

⑦ **教科書**：：はじめて学ぶやさしい疫学（日本疫学会監修、南江堂）

参考書：基礎から学ぶ楽しい疫学（中村好一著、医学書院）

NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第 3 版（岸玲子他編集、南江堂）

分子疫学入門～精密医療の基礎知識～（栗山進一著、東北大学出版会）

公衆衛生がみえる（医療情報科学研究所編、メディックメディア）

疫学の事典（日本疫学会監修、朝倉書店）

10000 人を 60 年追跡調査してわかった健康な人の小さな習慣（大平哲也著、ダイヤモンド社）

⑧ **成績評価方法**：出席、実習態度、実習中の課題及び発表・レポートにより評価する。配分：出席、実習態度、実習中の出席・課題 40%、発表・レポート内容 60%。出席については、規定に基づき原則として、4／5 以上の出席を要する。なお、「社会医学」の最終成績については「衛生学・予防医学」「公衆衛生学」「疫学」「衛生学・公衆衛生学・疫学

実習」を個別に判定し、すべての判定基準を満たした場合に合格とする。不合格の場合、次年度における再履修の範囲は「社会医学」を構成する全ての開設科目とする。

- ⑨ **学習上の注意事項**：初回の実習において実習内容、注意事項、評価方法等についてオリエンテーションを行うので開始時間に間に合うように出席すること。また、初回の授業をやむを得ず欠席した場合はオリエンテーションの内容を出席者に必ず確認すること。

⑩ **垂直的統合授業の実施内容**

疫学の実習においては生活習慣病、循環器疾患、がん等の臨床的疾患についての知識を再確認するとともに、その予防法を実習に組み込む。

⑪ **水平的統合授業の実施内容**

疫学の実習においては疾病の危険因子を明らかにする上で、生理学、生化学、病理学等の知識を再確認するとともに、そのメカニズムを実習に組み込む。

⑫ **本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容**

東日本大震災後の放射線事故及び新型コロナウイルス感染症等の心身の健康への影響を疫学的視点から考えるとともに、心身のストレスの影響を予防する方法として、疫学講座で先駆的に取り組んでいる「笑い等のポジティブな心理・行動因子による介入」「統合医療・代替医療についての介入」について実習に組み込む。

⑬ **授業スケジュール／担当教員等**：

【実習日程】

回数	年月日	曜 日	I	II	III	IV	V	VI
			8：40-9：40	9：50- 10：50	11：00- 12：00	13：00- 14：00	14：10- 15：10	15：20- 16：20
1	11月6日	金	オリエン テーション	ガイダンス グループワーク	グループミーティング			
2	11月13日	金	実習実地・グループミーティング					
3	11月20日	金	実習実地・グループミーティング					
4	11月27日	金	実習実地・グループミーティング					
5	12月4日	金	発表準備					
6	12月11日	金	実習発表会				講評・報告書作成	

上記の担当は教員全員とする。

⑭ 【担当教員】

教員氏名	職	所属
大平 哲也	教授	医学部疫学講座
江口 依里	准教授	医学部疫学講座
舟久保 徳美	講師	医学部疫学講座
佐藤 志帆	学内講師	医学部疫学講座
中野 裕紀	兼任准教授	医学部疫学講座
林 史和	兼任准教授	医学部疫学講座
長尾 匡則	兼任講師	医学部疫学講座
佐藤 陽香	併任助教	医学部疫学講座